

## 4 幼・保・小連携教育推進委員会の取り組みから

小学校との連携を深めるためには、幼稚園・保育所の教員・保育者同士の相互理解が不可欠である。これまでも本市では、市内の幼稚園・保育所・小学校との間で、保育や授業参観、合同研修を実施し、それぞれの取組状況や課題等について交流し意見交換を行ってきたが、勤務形態の違いから研修時間の確保が難しいという面もあった。しかし、この1、2年は教育委員会の主導のもと、合同研修等の日程調整を図りながら、幼・保・小の連携という事業に進んで取り組んでいる。

### 教員の合同研修を通して

小学校の教員・保育所の保育士が幼稚園の保育を参観して、就学前の幼児の遊びを通し、学びの様子を知る。保育とその後の合同研修会や講演会を通して相互理解を深めていった。

- ①一緒に講演を聴く（3回実施）
- ②公開保育を通して相互理解を進める（4回実施）



### 小学校の授業から学んだこと

- ・授業の中では、黒板や掲示物に、言葉だけでなく写真やイラストを用いている事が多い。幼児期に用いる教材と似ているため、子供たちが理解しやすい。
- ・席が隣同士の友達と教え合う機会を作っていることが多い。
- ・「時間を意識して取り組む」経験をさせておくことが大切である。
- ・「使ったら片付ける」ということが習慣化されていないと、机上の整理ができず授業に集中して取り組むことができなかったり、学習を進める上で支障をきたしたりする。  
(筆箱・鉛筆・色鉛筆・教科書・プリント)
- ・いろんな友達とかかわろうとする意欲、人と話したり、教えてもらったり、教えたりする心地よさを培っておくことが大切である。

### 幼稚園・保育所の参観から学んだこと

- ・友達から渡してもらったら「ありがとう」と言ったり、活動の中で「全部あるね」など友達と協力したり教え合ったりすることができている。
- ・友達と協力して活動している。当番活動も上手である。
- ・作品を壁に掲示したり、道具を素早く片付けたりいろいろなことができる。
- ・あいさつがしっかり出来ている。聞く姿勢もよい。
- ・はさみとのかみ上手に上手に使っている。のりを適量に上手にとって使っていて、自分たちでできていることが多い。
- ・使ったテーブルクロスを丁寧に片付けるなど、仕事を最後までしっかりやっている。
- ・静かに話す人の顔を見て話を聞いている。本の読み聞かせでは、お話をよく聞いている。
- ・自分の言葉で大きな声で、はきはきと発表することができている。
- ・順番をしっかりと守っている。
- ・色鉛筆など、使ったら片付ける態度がしっかり育っている。

#### (環境構成)

- ・係や当番がよく分かるようにマークがある。
- ・カレンダーを利用して数が身近に感じられるようにしている。
- ・栽培活動や生き物への興味が広がるように、活動や道具が工夫されている。
- ・エコ活動や食育に楽しく取り組む工夫もしている。
- ・子供が使いたい道具や材料が使いやすい場所にある。
- ・作品の掲示など小学校へつながるような工夫がされている。
- ・視覚的に訴え、パネルシアター等を使って興味をひきつけている。
- ・数を意識する言葉かけがある。
- ・子供がよく先生の話聞いていた。いろいろなことに対して好奇心をもつ年齢である気がするが、しっかり説明を聞いてから行動している。自分自身も子供を指導するときは、言葉かけを意識していきたい。
- ・小学校にとってもレベルの高い活動していて、とても驚いた。

#### 担任会研修から

幼稚園、保育所の5歳児担任と小学校1年生担任、保育カウンセラーも参加し、現状について意見交換を行った。



はじめに、小学校長先生の就学に向けて配慮している点や幼・保・小の連携の必要性や連携によって期待されるもの、小1プロブレムへの対応や小学校入門期までの見通しをもった指導や互惠性について、お話を伺った。

グループでの意見交換では、小学校に送っている指導要録や就学支援シートは、どのように活



用されているのかなど、学校の対応について質問したり、子供の様子について話し合ったりした。



- ・登下校時に付き添ったり、連絡帳に毎日様子を記入したりしている保護者の様子が見られるようになった。
  - 保護者は新しい環境に不安を抱いている。初めのうちは丁寧に接することで次第に安心するのではないか。
- ・自分の話はするけれど、人の話を聞けない子が見られるようになった。
  - 聞いていないと困ることを伝えるなど、見通しがもてるような声かけを行なっている。
- ・一緒に行動していても、みんなから遅れてしまうマイペースな子がいる。
  - ゲーム性をもたせて取り組むのも一考です。